## ★ 世界ダンススポーツ連盟ユーススタンダード世界選手権遠征

２０１６年７月９日に世界ダンススポーツ連盟ユーススタンダード世界選手権が、初めて日本で開催！
会場は、１万人収容できる北九州市総合体育館メインアリーナ。
世界３６ヶ国のユース代表選手 ６２カップルが、金メダル獲得を目指して集合。
私は、東京・調布地元のダンス愛好家１４名と応援団を結成して、北九州市小倉入。
［＊ユースとは、 １５歳～１８歳の選手 ］

北九州市総合体育館 メインアリーナ

日本代表　藤井 創太＆吉川 あみ

日本代表　大西 大晶＆大西 咲菜

## ★ ダンススポーツとは

カテゴリーとして、スタンダードとラテンがあります。スタンダードは、Waltz、Tango、Slowfox 、Quickstep、Viennese Waltz の５種目。 ラテンは、Samba、Chachacha、Rumba、Paso Doble、Jive の５種目で、それぞれ５種目の総合得点で勝敗を決定します。

## ★ NLP ダンスコーチングとしての戦略

私が選手に伝授した NLP ダンスコーチングとしての戦略をみなさんにもご紹介します。
初めての会場でのコンペではリーダー（男性）が、まず最初にやることがある。会場全体が見渡せる場所、例えば２階席に行ってフロア全体を確認し、どこに本部席があるか、またどこにジャッジが立つかをイメージする。
そして、自分自身がどこに立って踊れば、ジャッジに一番見てもらう確率が高いかを確認する。
その時に、実際の試合でどのように踊っているか、自分の踊りをシュミレーション（イメージ）

する。そのシュミレーションしている時に、自分の最高のパフォーマンスが発揮できているイメージを自分自身の脳に記憶させる。もしも、最高のパフォーマンスが発揮しにくい場合は、過去の成功した場面とオーバーラップさせて、イメージする。この手法は、多くのオリンピック選手が、自分の本番の時をイメージして、何度も脳に憶えさせるイメージトレーニングの一種である。もしもその時に時間があれば、実際にフロアに立って、自分自身がシュミレーションしたイメージを再現してみる。
次に、Chachacha、Rumba、Jive のように、その場で踊る種目は、できるだけジャッジの眼に入る場所を取る。心理学的に、人は自分の眼の前で動くものを無意識に見て確認しようとする。
そこで、戦略が必要になる。日本のジャッジは、日本選手のことは良く知っているので、もしも９人のジャッジがバラバラにフロアに立っている時は、海外ジャッジのいる近くの場所に立つ。
なぜならば、日本選手のことをあまり知らないジャッジは、そのジャッジから離れて、遠くで踊っている日本選手を注意深く見てくれる可能性が低いから。
そこで、当日のジャッジで、自分たちが知らない海外ジャッジには、できるだけ自分たちの踊りをアピールする必要がある。もちろん、観客にアピールということもとても重要な項目だが、今はジャッジにアピールすることを心掛ける。
他の種目（Samba、Waltz、Tango など）の場合は、フロアを回って踊るので、ジャッジのいない所で、ずっと踊っているのは、あまり効果的ではない。
人は眼の前で動いて、通り過ぎている者に、無意識に眼がいく。この人間の無意識行動を活用して、第一次予選から、ジャッジの潜在意識に、自分たちの踊りをアピールしていく。
さらに、自分たちが楽しく、最高のパフォーマンスが発揮できれば、すべてのジャッジが二人の踊りを絶賛するであろう！

## ★世界ユースオープンラテン選手権で、第３位 銅メダル！

世界のひのき舞台で、初めて日本選手が、第３位に入賞！
表彰台を降りてきた彼らをハグした時に、思わず感動の雫が頬を伝わってきた私でした。

日本代表　藤井創太＆吉川あみ